



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### アフガニスタン：仏国、豪州、伊国首脳のアフガニスタン訪問

(12月24日付「フィガロ」紙他)

12月22日、サルコジ仏大統領が就任後初めてアフガニスタンを訪問した。その数時間後にはルッド新豪州首相が、23日にプロディ伊首相が電撃訪問した。

1. サルコジ大統領は、大統領選挙前には一時仏軍撤退に言及したこともあったが、22日には、仏のプレゼンスを定着させ、さらには強化する意欲を明らかにした（注：仏国防省によれば、仏軍は現在1,900名の兵士をアフガニスタン全体に展開しており、うち400名が「不朽の自由作戦」に、その他が国連治安支援部隊（ISAF）に参加している）。
2. NATOによるOMLT(The Operational Mentor and Liaison Team)の枠組みで仏国はすでに指導官を4チーム、合計で220名を配備しているが、本年初頭に引き上げられた特殊部隊の再投入に関しては大統領は名言を避ける一方、「タブー」ではないと述べた。
3. カブールを訪問したルッド新豪州首相は、約900名の兵士を主に南部のワルズガンに展開している豪は「長期的」にアフガニスタンに残留すると約束した。23日にはプロディ伊首相が西部のヘラートに展開するイタリア軍を訪問する前にカブールに立ち寄った。
4. これらの訪問が、安全上の理由から最後まで秘密とされたのは、アフガニスタンの状況が悪化していることを雄弁に物語る。カルザイ大統領の地位はこれまでになく不安定となっている。6年間にわたり、6万人の外国人部隊が投入されているにもかかわらず、カルザイ政権は追いつめられており、タリバンの活動はカブール近郊にまで広がっている。NATO同盟軍の間では、この泥沼から抜け出すための方法について意見が分かれている。
5. 米国は、同盟軍の強化を呼びかけている。NATOの司令官は、仏と独への言及を用心深く避けながら、南部での戦闘への参加を要求している。サルコジ大統領は、米の要求に本質的に答えていない。仏軍の「量的」ではなく、どちらかという「質的」な努力に言及しつつ、サルコジ大統領は「解決策は軍事的なものとは限らない」と強調した。こうした考えは、他のNATO諸国だけでなく、カルザイ大統領とも共有されている。同大統領は、民間人を巻き込む爆撃を嘆き、また、新しいアフガニスタンの機構の認知を受諾するタリバンとの和解を模索している。